



喜多流 自主公演

平成二十八年 五月

嵐山 佐々木宗生
楊貴妃 大村 定
烏頭 高林 呻二

平成28年 5月22日(日)

12:00 開演 (11:00 開場)

十四世喜多六平太記念能楽堂

料金:全席指定(税込)

S席 9,000円 A席 8,000円 B席 7,000円

C席(1階敷席) 6,500円 D席(2階席) 6,500円

学生席(2階席) 2,500円 (25歳以下、要学生証提示)

- ・午前11時15分より、本舞台にて当日の演目の解説をいたします。お気軽にご参加ください。
- ・当日券をご用意できる場合は午前10時45分より発売いたします。

主催：公益財団法人 十四世六平太記念財団 協力：喜多流職分会
後援：品川区、品川区教育委員会

チケット予約購入のご案内

インターネット

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com/>
(24時間対応、要登録・無料)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

② 喜多能楽堂事務局 窓口

クレジットカードでお支払いの上(ホームページでのweb決済)、ご予約の際に画面に表示された番号を窓口にご提示いただき、チケットをお受取りください。現金でのお支払いはできません。

電話予約

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

① セブンイレブン

ご予約の際お伝えする番号をレジにご提示の上、チケットをお受取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

② 郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

③ 喜多能楽堂事務局 窓口

ご予約の際お伝えした番号を窓口にご提示の上チケットをお受取りください。お支払いは現金のみとなります。

窓口

喜多能楽堂事務局 TEL 03-3491-8813
(午前10:00～午後6:00 休館日あり)

【お受取り・お支払い】

お支払いは現金のみとなります。

- ※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。ご予約の際ご案内いたします。
- ※28年度前半5回分は発売中です。
- ※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・ロビー・見所でのご飲食はできません。2階ラウンジをご利用ください。
- ・喜多能楽堂は全館禁煙です。屋外喫煙所をご利用ください。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回り品にご注意ください。盗難・紛失についての責任は負いかねます。コインロッカーもご利用ください。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

喜多流自主公演年間優待券

5枚綴り 35,000円

- ◆ご希望のどの席種でもお選びいただけるお得な年間優待券です。
- ◆お求めは喜多能楽堂事務局まで。各喜多流職分でも承ります。
- ◆ご観能の際は別途、座席指定券をご予約ください。
 - ・追加料金はかかりません。
 - ・ご予約は、インターネット、電話、窓口で承ります。
 - ・年間優待券のみでの観能はできません。
 - ・ご入場の際は、年間優待券と座席指定券をご提示いただきます。
- ◆ご利用は、表記年度中(4月～3月)の喜多流自主公演のみ有効です。青年能には使用できません。

自主公演観客席御案内



S席	9,000円	C席(1階敷席)	6,500円
A席	8,000円	D席(2階席)	6,500円
B席	7,000円	学生席(2階席)	2,500円

会場案内図



JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅より徒歩7分。目黒駅西口よりドレメ通りを直進。杉野学園体育館手前を左に入る。

※当能楽堂は駐車場施設がございませんので、お車でのご来場はご遠慮いたします。

十四世喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

TEL: 03-3491-8813 FAX: 03-3491-8999

喜多能楽堂ホームページ: <http://kita-noh.com/>

五月自主公演番組

能

シテ連・勝手明神 高林 昌司
シテ連・木守明神 谷 友矩
シテ連・姥 佐々木多門
後シテ・蔵王権現 佐々木宗生
前シテ・老翁

嵐山

ワキ・臣下 宝生 欣哉
ワキ連・従者 則久 英志
ワキ連・従者 大日方 寛
アイ・蔵王権現の末社 中村 修一

大鼓 亀井 広忠 太鼓 小寺 佐七
小鼓 住駒 充彦 笛 藤田 貴寛

嵐山(あらしやま)

勅命を受けた臣下が、嵐山に桜の開花の様子を見に行くと、花の元を清める老夫婦に会う。言葉かけると、この桜は皆神木で吉野の里の千本の桜を移してきたもので、木守明神(こもりみょうじん)、勝手明神が来臨するという。そして自分たちがその夫婦の神だと明かして消え去る。ハ中入V 夜になると若い姿の木守明神と勝手明神が現れ、寿ぎの舞を舞う。やがて蔵王権現が現れて、木守・勝手・蔵王権現は実は一体であるというその姿を見せる。
(約八十五分)

横座(よこざ)

耕作人が牛の目利きのために博労を訪ねる。耕作人が連れてきた牛はいなくなつた博労の牛であつた。博労は、この牛は自分の牛で、生まれてすぐ座敷の横座にすわらせ大事に育てたので、「横座」と呼ぶとすぐに鳴くほどなれてる。返してくれと頼むと、耕作人は三声「横座」と呼んで鳴けば返すという。一声、二声では鳴かず、博労は懸命に牛に語りかける。
(約二十分)

楊貴妃(ようきひ)

唐の皇帝、玄宗の命を受けた方士(ほうし)は、馬嵬の駅で殺された楊貴妃の魂魄のありかを捜しに、常世の国の蓬萊宮へやってくる。王妃と名を変えた楊貴妃に方士は、楊貴妃が亡くなってからの玄宗の嘆き哀しむ姿を伝え、蓬萊宮に来た証拠が欲しいと言つと、楊貴妃は玉の釵を渡す。しかし方士はそれよりも玄宗と交わした契りの言葉を覚えて欲しいと言つと、七夕の夜に比翼の鳥、連理の枝となろうと二人で誓い合つたと話す。更に自分はずもともと天上界の仙女だつたが人間の姿となつて生まれ、そして玄宗に出会つたのだと昔を物語る。想い出の羽衣(うい)の曲を舞い、再び玉の釵を方士に持たせ、その帰りに行く後ろ姿を一人寂しく見送るのであつた。
(約九十分)

烏頭(うとう)

旅の僧が越中の立山を訪れると、不思議な老人に呼びかけられる。自分は去年死んだ狐師で、故郷の家族に用を頼んでほしいと言ひ、着ていた衣の片袖をちぎり、僧に渡すと姿を消す。ハ中入V 僧が外ノ浜の狐師の家を訪ねると、形見の着物には袖がなく、持参した袖がびつたり合つたのだつた。亡者の望みに従ひ蓑笠を手向けて用いをする狐師の霊がやつれ果てた姿で現れる。霊は回向を感謝し、わが子に近づこうとするが、生前に子鳥を捕つて親鳥と引き離した報いで近づけない。狐師の霊は殺生の所業のあさましさを物語り、地獄の苦しみを覚えて、救いを求めて消え去る。
(約八十五分)

横座

シテ・博労 野村 万作

アド・何某 石田 幸雄
小アド・牛 飯田 豪

狂言

後見 香川 靖嗣
金子 匡一

地謡 友枝 雄太郎 友枝 雄人
友枝 真也 長島 茂
粟谷 充雄 中村 邦生
狩野 祐一 狩野 了一

楊貴妃

シテ・楊貴妃の霊

大村 定

休憩(二十分)

ワキ・方士 殿田 謙吉

大鼓 柿原 崇志
小鼓 大倉源次郎

笛 槻宅 聡

アイ・常世国の者 内藤 連

後見 塩津 哲生
松井 彬

地謡 渡辺 康喜 谷 大作
佐藤 寛泰 粟谷 明生
粟谷 浩之 出雲 康雅
佐藤 陽 金子 敬一郎

休憩(十分)

仕舞

田村

長島 茂

地謡

粟谷 浩之 大島 政允
粟谷 幸雄 粟谷 充雄

能

シテ連・狐師の子 粟谷 僚太

シテ連・狐師の妻 塩津 圭介

後シテ・狐師の霊 高林 呻二
前シテ・老人

烏頭

ワキ・旅僧 福王 和幸

大鼓 柿原 光博
小鼓 森澤 勇司

笛 寺井久八郎

アイ・外の浜の浦人 岡 聡史

後見 友枝 昭世
内田 安信

地謡 高林 昌司 佐藤 章雄
佐藤 陽 内田 成信
佐藤 寛泰 粟谷 能夫
谷 友矩 大島 輝久

附祝言

— 終了予定 午後五時過ぎ —

平成二十八年 六月 自主公演番組予告

平成二十八年 六月 二十六日(日) 正午始
十四世喜多六平太記念能楽堂

兼平 粟谷 能夫
羽衣 佐藤 章雄
鉄輪 谷 大作